

チャペル週報

No.28

2019.1.7 ~ 1.16

だから、キリストと結ばれる人はだれでも、
新しく創造された者なのです。

古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。

(コリントの信徒への手紙二 5章17節)



西宮上ヶ原キャンパス ランバス記念礼拝堂

関西学院宗教センター

☆ チャペル・スケジュール ☆

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

1月7日(月) 神 公現日礼拝 加納 和寛(神学部准教授)
経 新しい年を迎えて 舟木 讓(宗教主事)
人 新しい年を迎えて 嶺重 淑(宗教主事)
理 ALL讃美歌プログラム(1)
聖和 聖書物語「おさな子をさがす占術師」

1月8日(火) 神 井上 智(神学部助教)
文 最終チャペル 田淵 結(院長)
社 新年を迎えて 打樋 啓史(宗教主事)
法 大宮 有博(宗教主事)
経 卒業生を覚えて 舟木 讓(宗教主事)
商 山本 俊正(宗教主事)
国 一年の振り返りのために 高等教育推進センター
理 ALL讃美歌プログラム(2)
総 中村 憲人(総合政策学部3年)
教 今津屋 直子(教育学部長)

1月9日(水) 阪神淡路大震災メモリアル・チャペル(西宮上ヶ原キャンパス)
メッセージ:大宮 有博(法学部宗教主事) ランバス記念礼拝堂
理 ALL讃美歌プログラム(3)
総 夏目 裕(吉岡記念館事務室次長)
教 梶原 直美(宗教主事)

1月10日(木) 神 礼拝学演習B
文 Andreas Rusterholz(宗教主事)
社 学年度末にあたって 難波 功士(社会学部長)
法 大宮 有博(宗教主事)
商 林 隆敏(商学部長)
国 Chapel in English Eun Ja Lee(宣教師)
総 村瀬 義史(宗教主事)
聖和 千葉 武夫(聖和短期大学学長)

1月11日(金) 神 中道 基夫(神学部長)
文 Chapel in English Andreas Rusterholz(宗教主事)
人 大和 三重(人間福祉学部長)
理 ALL讃美歌プログラム(4)

1月16日(水) 院 舟木 讓(経済学部宗教主事・宗教総主事)

◇ランバス早天祈祷会 毎週金曜日 8:20～8:40 ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)
1月11日(金) 新年を迎えて 本郷 亮(経済学部教授)

初詣

本田 盛

私は子どもの頃、神奈川県鎌倉市の鶴岡八幡宮から100メートルくらいのところに住んでいました。全国的に初詣客が多い神社です。お寺が多い町なので、大晦日には除夜の鐘があちこちから聞こえます。それが終わると、ざわざわとした足音の家まで聞こえてきます。初詣の人たちです。それに混ざって、整理をする警察の拡声器の声も聞こえます。

このようにして子どもの頃の新年は始まりました。ですから新年を静かに迎えるという経験がありません。むしろ騒々しいものとしてとらえていました。

何かで読んだのですが、初詣は明治時代に入ってから、電鉄会社が神社やお寺とコラボして発案したものだそうです。ここにもコマーシャルズムか何だかがっかりします。

新年に対しては旧年という表現があります。また新年には旧年を忘れて新たな年を迎えるという意味もあるかもしれません。個人的なことで恐縮ですが、この10数年間に、さいわい回復しましたが、長男が交通事故で意識不明になり、6年前には三男を亡くしました。これらの出来事はただ出来事というだけではなく、大きな衝撃と深い悲しみをあたえられました。これらを忘れることができません。

旧約聖書学の雨宮慧先生が書いておられましたが、ヘブライ語では「過去」を表す語と「前」を表す語が同じだそうです。つまり「過去」を見ながら前に進んで行くイメージでしょうか。ちょうど後ろ向きに進むボートのようなものです。過去は忘れ去るものではなく、しっかりと前に見るものだというとらえ方だと思います。

今年、元号が変わります。昭和、平成、そして今度決まる新しい元号が歴史のつながりを分割すると感じるのは私だけでしょうか。たとえば第2次世界大戦は昭和の出来事というようにとらえることで、過去の出来事として葬られてしまうのではないのでしょうか。

新年はさすがしく、すべてを新たにしてくれるような気がします。しかし新年を思うとき、子どもの頃に聞こえた足音も記憶に浮かびます。今年は何かいいことがあるかもしれない、と思う一方で、何か悪いことが起こるかもしれないという不安もあります。すべての出来事を、新しいのちにつながるスケールでとらえたいと思います。

(総合政策学部教授)

●阪神淡路大震災メモリアル・チャペル

と き: 1月9日(水)10:35~11:05

ところ: ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

メッセージ: 「最後の一人までの復興をあきらめない」 大宮有博(法学部宗教主事)

主 催: 関西学院大学

●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローズタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、大学院授業期間中の毎週木曜日にチャペルアワーを開催しています。【どなたでもご自由にご参加ください。】

(17:50~18:20 1405教室)

1月主題: 「新しい年を迎えて」

1月10日(木)嶺重 淑(大学宗教主事)

* 1月17日(木)主題: 阪神淡路大震災メモリアル・チャペル
舟木 讓(宗教総主事)

●夕べの祈りatランバス~テゼの音楽とともに~

ろうそくの光を灯して、テゼの歌を歌いながら、皆でこころ静かに過ごす夕べの祈りのひとときです。【どなたでもご自由にご参加ください。】

第4回 1月10日(木)18:30~20:00

ところ: ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

主 催: 夕べの祈り準備会(学生有志)

協 力: 関西学院宗教活動委員会

●宗教活動委員会2018年度教育研究部サロン「関西学院 この50年」

1889年創立の関西学院は、今年創立130周年を迎えます。1929年に西宮上ヶ原へ移転してから90年、この節目の年の年頭に、学生時代を含め50年を関西学院で過ごされた田淵院長に、「関西学院 この50年」と題してお話を伺います。 ※申し込み不要・無料(教職員・学生・一般対象)

と き: 1月15日(火)17:10~18:40

ところ: 大学図書館ホール(西宮上ヶ原)

講 師: 田淵 結(第16代院長、初等部長、千里国際キャンパス統轄、教育学部教授)

主 催: 関西学院宗教活動委員会教育研究部会

●チャペル・オルガニスト卒業演奏会

各学部チャペルをはじめ、式典などでオルガン奏楽を務めるチャペルオルガニスト14名が、今春関西学院大学を巣立ちます。学生時代の思い出を胸に、これまでのレッスンと練習そしてチャペルでの経験すべてをこの日の演奏に託します。どうぞご来場いただき、学生時代最後の演奏に拍手をお贈りください。

と き: 3月2日(土)14:00~

ところ: ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

●3.11東日本大震災8年記念礼拝

と き: 3月11日(月)14:30~

ところ: ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

内 容: 礼拝(地震発生時刻の14:46に黙祷の時を持ちます)

今号が本年度「チャペル週報」の最終号です

2019年度は4月8日(月)号からの発行です。チャペルアワーのスケジュールや宗教センター、宗教活動委員会、吉岡記念館主催の催し物などのご案内をしております。

また、教職員の方々によるメッセージやエッセイを掲載しますのでどうぞお楽しみに!